

シスターメリー
ジョアンナ 徐



ノートルダム教育修道女
会の門をくぐって早や55年！
振り返って見ますと悲喜こも
ごものすべてが神の御手の中で行われていたこと
を実感し、自然に感謝の祈りがこぼれます。

田舎の教会で、夏の修道服を着ていらしたシ
スター方に初めて出会いました。彼女たちは、は
つらつとしたエネルギーにあふれている女性で、
快活、ユーモアのセンスもおありでした。しかも
希望を感じさせてくれる彼女たちの笑顔に引き込

まれ、将来を考えていた私を魅了しました。そう、私もあのような幸せに満ちた人生を過ごし、この幸せを多くの若者に伝えたいと思ったものです。シスターになりたい!まもなく、指導司祭のモール神父様が本会を紹介してくださったのでした。

修道院を母と訪問した時、最初に出会ったのはアメリカ人の Sr. メリージャンでした。母と私は一瞬にして彼女の笑顔に引き込まれました。温かく愛にあふれた方で、それは生涯変わることはありませんでした。もう一人の方は修練長の Sr. クラリアでした。彼女から修道生活の深い意味を、ご自分の存在を通して教えていただきました。腰にロザリオを、そして右手に会則を携えながら温かい微笑みを浮かべ彼女はいつも「あなた自身でありなさい。全身全霊をもってあなたのイエスに、そして出会う方々にお仕えするのです。」と教えて下さいました。私の修道生活に同伴し、育てて下さった方々すべてが今も私の心の師であり、支えです。

(初誓願 1966)

シスターミリアム テレーズ 金谷



仏教徒の家庭に育ったにも拘わらず、心の深層に普遍的の神とその真理を求めたのは何故だったのでしょうか?

洗礼を受けてキリスト教徒として人生を全うし尽くす自信の無い私は、修道生活を通して神の道を歩む決心をしました。キリスト教の教えや風習も知らずに修道生活を求めた事は、自分も家族も

驚きでした。東山の麓にある修道院を訪れ、修練長と志願者の皆さまとお会いし、その雰囲気素晴らしさに入会を決心しました。そこで、毎夕、召命の祈りがなされている事を知り、ここに神への導きと生活を変える力の源泉が在った事を知りました。

修道会で受けた第一の恵みは、修練期やそれに続くキリスト教の教えを学ぶ機会を与えられたことでした。そして勉学の苦手な私に、教師の道を与え、臆病で恥ずかしがりの私に、ネパールへ出ていく道を示されたのも、修道会でした。不得手な仕事と慣れない環境に溜め息をつきつつも健闘しました。お蔭で、多くの人々と知り合い、多くの子どもたちと過ごすことで、日々の務めを喜びを以て果たすことが出来ました。恥を忍んで下手な英語やネパール語で人々と交わる楽しさも経験しました。国際性とか、一致などと立派なことは言えませんが、修道会の持ち味の幾分かを体験させていただいたと感じています。

若き日々にあこがれた神体験や、神聖な物、輝く神の御業とは程遠い現実の生活を味わいながら、先に身罷^{みまか}って行かれたシスター方に迎えて戴ける日まで、頑張りたいと思っています。感謝のうちに。

(初誓願 1966)

シスターメリー アイリーン 中村



私は中学2年生の時、ノートルダムのシスターと志願者が草津教会の夏期学校の手伝いに来て下さっていた時、初めてお会いしました。その時、明るくて朗らかな人たちだという印象を受けました。又生徒たちを引率して、教会での奉仕をさせておられたことも心に強く残りました。

その後、洗礼を受けたこともあって、ノートルダム女学院高等学校へ入学しました。3年間シスター達と接する中で、徐々にシスターになりたいという望みが生まれたと思います。

又シスター達の生徒に向き合う姿勢や献身的な態度にも感心していました。特にホームルームの担任や教科を教えていただく中で良い影響を受けました。

高校3年生の時、シスターマグダレンに卒業後入会したい旨を伝え、すぐにシスターメリーポーロにお会いしました。ところが面接の中で、卒業生は体が弱いので一年間待つように言われ非常にがっかりしたことを覚えています。それでも入会したい気持ちがありました。

入会前、まずノートルダム女子大学を受験することでした。(幸い合格できました)そして月一回修道院を訪問して、志願者の方々と生活することでした。実際見ることによって自分にはこのような生活を続けられるのかという不安や心配がありました。

でも信者の友達から祈りや励ましをもらい、又私と関わりのあったシスター達の祈りや助言に支えられ、大学2年生の時入会のお恵みをいただきました。感謝でいっぱいです。

(初誓願 1966)

シスターメリー ジュディス 鎌田



SSND日本地区に「使徒職研究委員会(ASC)」と「霊性昂揚委員会」が発足したのは1975年頃、シスターメリーアボットが地区長の時でした。シスターメリーは、第2バチカン公会議の「修道生活の刷新と適応への呼びかけ」に応え、小コミュニティの発足、唐崎祈りの家の開設、ネパールミッション派遣などの取り組みに、まだ若かった私たち日本人 SSND の理解を広げ深める様々な学びの機会を提供し、忍耐強く対話を重ねて下さいました。思えば、シスターメリーが特に大切にされたことは、私たちが SSND 修道者として共同体を生き霊性を深めることと、キリストの使命に応える使徒職に励むことが車の両輪のように一体であることでした。「使徒職研究委員会」と「霊性昂揚委員会」がほぼ同時に発足したこと、唐崎祈りの家開設とネパール派遣が同時期であったことにもシスターメリーの思いが表れていると思います。私はASCのメンバーでしたが、委員会が仕事を始める時、『私たちは一人ひとり、また共同体としても全身全霊で自分が派遣されている使徒職に励んでいるが、同時に自分の使徒職外にある人々の苦しみや緊急ニーズも視野に入れていなければならない。このために情報を収集・提供し、学びの機会を企画するなどが委員会の役割である』と告げられました。日本ミッション70年の節目にこのことを思い出し、心を新たにしています。SSNDに感謝!神さまに感謝!!

(初誓願 1966)

シスターメリーカーラ 奥村



修道会のことを何も知らなかった私が、所属教会の神父様に勧められて、広島から遠く離れた京都のノートルダムに入会したのは、大きなお恵みでした。

銀祝でセントルイス、ローマに行かせていただき、また、「巡礼の旅」にも参加させていただき、アメリカ人をはじめ、多くの外国のシスター方と出会い、国際修道会であることを実感することができました。

高木町修道院という小コミュニティで生活したこと、特に、アメリカ人ミSSIONナリーのシスター・ジーンシュミッドと20年ほど一緒に生活したことは、まさに神様のお計らいだったと思います。信仰のありかた、ものの考え方、風俗、習慣の違いなど、いろいろ面白い経験のできた楽しい日々でした。

この修道会に私を導いてくださった広島教会の神父様にも深く感謝しています。

(初誓願 1967) (文責 Sr. ポーラ)

シスターコーデスマリー 加藤



四日市教会の主任司祭ムニー神父様(米国)を通してノートルダム教育修道女会の存在を初めて知ることができました。そして、私は四日市教会でSr. メリージャンに初めてお目にかかりました。彼女に温かさや親しみやすさを感じ

ました。その時、初めて母や弟も彼女に会いました。

また、鹿ヶ谷の修道院を最初に母、弟そして私の3人で訪問した時のことも私の召命とかかわりが強かったと思います。2・3人の若いシスター方が修道院の廊下を楽しそうに歩いているのを応接間から見ました。このことも私がノートルダム教育修道女会へ入会するきっかけを作ってくれました。

(初誓願 1967) (文責 Sr. ジョアンナ)

シスターメリーピア 名嘉真



神の仕事に深く関りながらどのように生きていくか。

イエスは日常のすべての歩みが祈りを生きることであり、

仕事の種類ではなく今このときを生きる。

入会前にシスターヴィヴィアンにお会いした時に話の中で私の家族は反対していますといいますが、シスターは家族が反対することはよいことです。そうでなければ私たちも要りません。家族から大切にされているので私たちもそのような人を必要としています。

こうしてSSNDに招いてくださった神の愛をどのように感じる日々なのかなと思う時、よくお風呂のことを思い起こします。お風呂は暖かい気持ちがいいし落ち着きますしゆったりしていられます。心も豊に広く大きくされます。

このようにして下さる神さまに日々感謝しながら過ごせますように。

(初誓願 1967)

シスターメリールース 森



一昨年、金祝の恵みをいただいた私の奉献生活をふりかえって、私は一緒に生活している日本のシスター方、出会うことができたアメリカやカナダ、ドイツ、アフリカに住んで奉仕している、全てのSSNDのシスター方に心から感謝します。私たちの会の国際性が、私の修道生活のはじめから現在にいたるまで、国内外のシスター方や友人たちとのすばらしい出会いをもたらし、私をそだて、SSNDの精神や神の愛、神への道を深く学ばせ続けてくれています。

ノートルダム女学院中高での国語科教師としての19年間とノートルダム女子大寄宿舎舎監として11年間の奉仕の日々は、苦勞しながらも、真剣に、また、楽しく、若者たちと交わり、多くを学んだ恵みの時でした。

弱く貧しい者でありながら、共に歩んで下さるイエスさまに信頼し、神父さま方や他の会のシスター方と協力して、入門講座、堅信の準備、集会祭儀の司式、黙想会などの奉仕をさせていただき、また、会のなかでの役割として、アソシエイトの方々と共に歩み、「Day by Day」黙想をガイドし、ノートルダム・ホームページにブログを投稿するなど、マザーテレジアの娘として、神さまとSSNDのためにできることは何でもしようとしています。

最後に、私の修道生活への家族のあたたかなサポートにも心から感謝しています。

(初誓願 1967)

シスターメリーアガタ 大野



(神のなさることはすべて時にかなって美しい。)
(伝道の書 3章11節)

日本ミッション70周年を迎える、この記念すべき年に私は金祝を祝わせていただきました。

50余年前、受洗後間もない頃、友人を通してノートルダム教育修道女会のシスターと出会いました。そして奉献生活という生き方があることを私は知ったのです。晴天の霹靂でした(これ以外の生き方は考えられない)とただひたすら思うようになりました。

親戚縁者にキリスト教を知る人はなく、まして修道院と言う存在すら知られていませんでした。彼らは(シスター?何をしている人なの?)(黒い長い服を着ているけど、どこに住んで、どんな生活をしている人なの?)まるで同じ人間だと思っていないようでした。

3年間待ちました。その間にそれまで勤めていたOL生活に終止符を打ち、新しい生活に備え、それにふさわしく対応できるように教員免許状を取得しました。

今、振り返って見ると、何と、すべてがうまくスムーズに運んでいったことでしょう。

(神のなさることはすべて時にかなって美しい。)

私たちの神に感謝と賛美!!

(初誓願 1968)

シスターメリー フィデリス 河野



シスターフィデリスは1970年以來30年近く、鹿ヶ谷のノートルダム女学院の一角にあった学校法人本部事務局における唯一の職員として、経理・庶務・電話や来客対応から雑用までの全てを、静かに、几帳面に、穏やかに執り行っておられました。法人本部事務局が女子大学のソフィア館に移転し、法人本部のスタッフも増え、組織化されてからも経理の仕事は退職まで続けておられました。シスターにとってのもう一つの喜びは、女学院中学高校の生徒に、放課後個人レッスンとして、表千家流茶道を教えることでした。これは法人本部事務局退職後も松ヶ崎から鹿ヶ谷に通って続けておられました。

シスターが1984年度に1年間休暇を取って生涯養成コースに参加されたときのこと、聖書学や神学の講座は、シスターにとってイエスに改めて出会う感動と喜びの体験でした。東京修道院でシスターに出会ったとき、顔を輝かせてその体験を語ってくださったことを今も思い出します。

2016年脳梗塞を患われたシスターは、2018年の誓願50年の祝いも病院のベッドで迎えられました。

シスターフィデリスへの神さまの限りない愛とはからいを信じ、全てを神さまに委ねます。

(初誓願 1968) (文責 Sr. ジュディス)